

報道関係 各位

全国農業協同組合中央会  
( J A 全 中 )**広報活動優良 J A を決定！  
大賞は「J A なんすん」（静岡県）！！****「平成 30 年度（第 32 回）広報活動優良 J A 選定—J A 広報大賞」  
審査結果発表ならびに「J A 広報トップセミナー（表彰式）」のご案内**

平成 30 年度（第 32 回）広報活動優良 J A 選定—J A 広報大賞（主催：全国農業協同組合中央会、審査委員長：尾関 謙一郎 メディアと広報研究所 主宰、明治学院大学特命教授）につきまして、厳正な審査のもと、下記のとおり受賞 J A が決定したことを発表いたします。

2 月 22 日（金）に開催いたします J A 広報トップセミナーにおいて、表彰式を行いますので、この機会に是非ともご取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 記

## 1. 表彰 J A 一覧

部門	賞	J A 名	県名
総合の部	大賞	J A なんすん	静岡
	準大賞	J A とぴあ浜松	静岡
	準大賞	J A にいがた南蒲	新潟
組合員向け広報誌の部	優秀賞	J A いるま野	埼玉
地域密着型広報活動の部	優秀賞	J A あいら	鹿児島
ウェブメディア活用の部	優秀賞	J A 阿新	岡山
審査委員特別賞		J A あいち豊田	愛知
		J A 新いわて	岩手



## 2. JA広報トップセミナー（JA広報大賞 表彰式）

（1）日時： 平成31年2月22日（金）14時00分～

（2）場所： 都市センターホテル 3階「コスモスホールⅡ」  
（東京都千代田区平河町2-4-1）

### 平成30年度JA広報トップセミナー スケジュール（予定）

時間	内容
13:30～14:00	受付
14:00～14:50	開会・JA広報大賞表彰式等
14:50～15:10	休憩・記念撮影
15:10～17:15	<p>【「総合の部」大賞受賞JA 実践報告】 講演者：JAなんすん 代表者</p> <p>【記念講演】 仮題：企業におけるトップ広報の必要性 講演者：株式会社パラダイスプラン 代表取締役 西里 長治 氏</p> <p>【基調講演】 仮題：トップが行うパブリシティ活動 講演者：メディアと広報研究所 主宰 尾関 謙一郎氏 （JA広報大賞 審査委員長）</p>
17:15	閉会

※ 取材をご希望の方は、恐れ入りますが別紙1をご記入のうえ、2月18日（月）までに本会広報部 広報課宛にご連絡ください。

## 3. JA広報大賞の概要及び審査講評

別紙2のとおり

### 【本件に関するお問い合わせ先】

JA全中 広報部広報課（担当：野村・市村）

東京都千代田区大手町1-3-1 電話 03-6665-6010



JA全中 広報部 広報課 (FAX : 03-3217-5072) 行き

※ 恐れ入りますが、平成 31 年 2 月 18 日 (月) までにご連絡ください。

平成 30 年度 (第 32 回) 広報活動優良 JA 選定—JA 広報大賞  
表彰式および JA 広報トップセミナー (平成 31 年 2 月 22 日開催) の  
取材について

## 1. 出席者について

報道機関名	所 属	氏 名

※スチールカメラ ( 有 ・ 無 )

## 2. その他 (ご連絡事項があればご記入ください)

ご連絡先 ( )

以 上



## 【JA広報大賞の概要】

## 1. 名称：

「平成30年度（第32回）広報活動優良JA選定—JA広報大賞」

## 2. 目的：

JA段階における広報活動の取り組みの中から優れた事例を表彰するとともに、その活動事例を広く全国に紹介すること等により、JA広報活動の一層の強化に資する。

## 3. 主催：

全国農業協同組合中央会

## 4. 協賛：

全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、(株)日本農業新聞、全国厚生農業協同組合連合会、(一社)家の光協会、(株)農協観光

## 5. 審査委員：

## ・審査委員長

メディアと広報研究所 主宰

明治学院大学 特命教授 尾関 謙一郎 氏

## ・予備審査会

シーディングコミュニケーションズ株式会社 片岡 優佳 氏

株式会社Office Me PR担当 福原 裕紀 氏

株式会社アップウェブ 代表取締役 藤田 尚弓 氏

## ・第一次審査会

社会情報大学院大学 客員教授 北村 秀実 氏

協賛団体広報担当部長

(特別審査委員)

株式会社ワロップ放送局 代表取締役社長 頃末 敬 氏

日本エディタースクール 講師 西村 良平 氏

株式会社Office Me 代表取締役 三井 智子 氏

## ・第二次審査会

協賛団体広報担当役員



## 【各賞の受賞理由について】

## ◀総合の部▶

## 大賞：JAなんすん（静岡県）

- 戦略・実践ともに充実し、総合力が高い。
- マスコミ情報交換会はJAほか行政関係者など57人参加でJAの具体的な活動の理解を求めている。また、リリースを年間140回発信し、掲載実績166回と非常に高い掲載率で、記者が取材に行きたくなるようなリリースの書き方の工夫がされている。
- 地元の飲食店向けの商談会では、行政・商工会議所と連携し、農産品の需要創出を図り、農家組合員の所得向上に向け、しっかりと生産者をフォローし、上手く情報発信がされている。
- JA自己改革の取り組みを紹介する冊子は、誰が手にとっても分かりやすく伝えることができている。また、正・准組合員別に制作した組合員向け広報誌づくりは特徴的。さらに、准組合員には職員が一斉訪問で配布している点が評価できる。

## 準大賞：JAとぴあ浜松（静岡県）

- リリースを年間131回出し、パブリシティが積極的にできている。その実績の効果を自ら広告換算額を算出し、効果測定している姿勢が評価できる。
- 組合員向け広報誌は、特集企画に8ページも割き、企画力・取材力・デザインどれをとっても秀逸であり、JAとして取り組むべき課題を分かりやすく伝えることができおり、非常に読み応えのある誌面に仕上げている。
- JA自己改革の取り組みを伝える冊子では、非常に分かりやすく改革の内容を紹介できている。

## 準大賞：JAにいがた南蒲（新潟県）

- 広報戦略室を設置し、広報専任担当者を5人も配置するなど、体制面もしっかりしている。
- 「なんかん育ち」というキーワードをもとに広報を展開し、ダンスやオリジナルテーマソングを職員自らが制作・実演し独自性が感じられる。
- 発信したリリースに対する掲載実績を一覧表にまとめ、各メディアがどのようなことに興味を持っているのかが一目で分かるようにし、次回の企画立案やメディアへのアプローチにも役立つ取り組みとなっている。



**《組合員向け広報誌の部》****優秀賞：JAいるま野（埼玉県）**

- 特集企画にページを割き、広報担当者が様々な人に取材をして仕上げしており、レイアウト、色使い、フォントの大きさ等広報誌づくりの基礎的なつくりがしっかりとできている。
- 「JAいるま野自己改革発信」のコーナーを設け、改革の成果や今後の取り組みについて上手く発信できている。
- 表紙と裏表紙を1枚の写真でつなげるアイデアが面白い。

**《地域密着型広報活動の部》****優秀賞：JAあいら（鹿児島県）**

- コミュニティー誌には、読者を意識したうえで、主婦層が料理したくなるようなレシピが多数掲載され、内容、サイズ、紙質全てにおいて評価できる。
- 女性向けのイベントは、企画・運営にも工夫がみられ、地域に向けた広がりも持たせることができている。
- 生活者の情報取得環境分析も行き、どのメディアが一番広報効果が高いかを意識したうえで広報展開ができている。

**《ウェブメディア活用の部》****優秀賞：JA阿新（岡山県）**

- SNSの活用が多岐にわたり、活用している各ツールの役割を明確に理解し、ユーザーの共感や行動喚起を狙った効果的な情報発信ができている。
- 地域住民や一般消費者にも見てもらえるようなコンテンツが充実している。
- JA自己改革のコンテンツを設置し、分かりやすくJAの取り組みを発信できている。

**《審査委員特別賞》****JAあいち豊田（愛知県）**

- 組合員向け広報誌でJA自己改革の特集を企画し、堅苦しくなりがちなテーマも分かりやすく紹介し、上手くアピールできている。
- 毎月ウェブサイトにて「組合長コラム」を公開、営農センター全所で「営農センターだより」を発行、常勤役員が組合員との話し合いの機会に積極的に出席する等、JA自己改革について組合員への情報発信、対話を確実に実践できている。



**JA新いわて（岩手県）**

- 独自の広報戦略・単年度の広報事業計画を策定し、コンセプト・方向性が明確。
- 組合員向け広報誌では、毎月号に1ページを割りJA自己改革の取り組みを伝え、同誌面内には“生産者の声”を取り上げ、JAの独りよがりの改革ではなく、組合員とJAと一緒に改革を進めていくという姿勢が伝わってくる内容に仕上げている。

以上

